

コロキウム2020提言

深井保健科学研究所 第19回コロキウム
「COVID-19と口腔保健・歯科医療のニュー・ノーマル」
2020年8月30日（日），オンライン

わが国をはじめ世界中で感染拡大が続いているコロナ禍において，新たなヘルスプロモーションに向けて以下の提言を行う。

1. 歯科医療機関・専門職のコロナ禍という危機下の経験と行動を蓄積しその共有を推進する。
2. 歯科医療機関におけるコロナ禍の感染リスクを検証すると共に，歯科医療機関の診療環境を含む新たな感染症対策の標準化とその普及を推進する。
3. コロナ禍の患者・国民レベルの口腔健康状態および地域別年齢階級別等の口腔保健行動と受療行動の変化を検証すると共に，**Essential**な歯科医療・口腔保健サービスとは何かを明らかにするためのエビデンスの蓄積を行う。
4. 高齢者をはじめとするハイリスク・**Vulnerable**の集団に対して，ナッジ等行動経済学の理論を活用したヘルスプロモーションを推進すると共に，モニタリングシステムの構築に向けた働きかけを行う。
5. リスクコミュニケーションに関する追究と犠牲者非難（**victim blaming**）をなくしていく包摂性のある仕組みの構築とその啓発を推進する。
6. デジタルヘルスを基盤としたリモート診療・リモート保健指導を推進するための歯科医療・口腔保健の体系化と，医科歯科連携を通じた歯科口腔保健のデジタルデータの蓄積を行う。
7. コロナ禍の経済への影響も踏まえて，医療経済学の観点から，国民皆保険制度下の適正な医療費・歯科医療費とより効率的で効果的な歯科医療の検証を行う。
8. 唾液・口腔粘膜等の宿主の抵抗性と食生活改善を含めた**NCDs** 予防による感染防御機転を検証し，そのエビデンスに基づく多職種連携による健康創造型歯科医療・口腔保健を推進する。
9. 口腔保健・歯科医療が国民の健康増進およびヘルスプロモーションの推進に寄与するための方策をより明らかにすると共に，コロナ禍で明らかになってきた歯科領域の公衆衛生上の弱点を克服するための取組みを中長期的に推進する。
10. わが国の国民皆保険制度下で**UHC**に位置づけられている歯科保健医療制度という特性を踏まえて，その経験の共有とエビデンスの集積を通してグローバルヘルスへの貢献を行う。